

鏡の中の女 (1976)

FACE TO FACE
ANSIKE MOT ANSIKTE

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 スウェーデン
時間 119分
初公開日 1982/06/26
公開情報 東宝東和

【解説】

「ある結婚の風景」の主演コンビで、よりシリアスにベルイマンが問いかけるのは現代人の苦悩。監督が人間存在の根源的な問題として提出しているのは、主人公の精神科の女医（ウルマン）の、患者や夫、肉親との関係の中にあぶり出されてくる彼女自身の罪の意識、あるいはトラウマかも知れない幼児期の記憶、年をとっていくことへの恐れ、という人間が必ずや精神に内包しているであろう“傷”である。邦題の“鏡の中の女”とは自分を見つめる自分（しかしそれは悲しいかな左右が全く逆なのだ）の事である。日常の中に突如として入り込む幻想の描写がスリリングで、鋭く感覚的な映像は監督一流ものである。オリジナルはTV作品だが、その版は日本未放映（「ある結婚の風景」も同様だが、こちらは放映済み）。

【クレジット】

監督	イングマール・ベルイマン	Ingmar Bergman
製作	イングマール・ベルイマン	Ingmar Bergman
脚本	イングマール・ベルイマン	Ingmar Bergman
撮影	スヴェン・ニクヴィスト	Sven Nykvist
音楽	チャービー・ラレティ	
出演	リヴ・ウルマン	Liv Ullmann
	エルランド・ヨセフソン	Erland Josephson
	グンナール・ビョルンストランド	Gunnar Bjornstrand
	レナ・オリン	Lena Olin